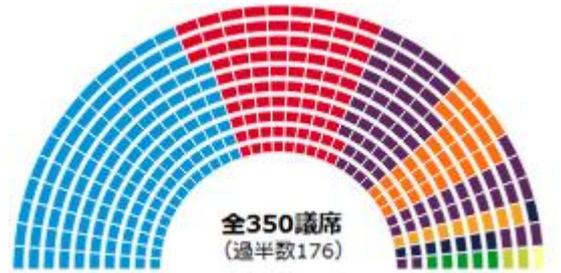


スペイン政治情勢

平成28年7月
在スペイン大使館

1. 国政の動き

- ・ フランコ体制⇒民主化。二大政党制（民衆党（PP），社会労働者党（PSOE））。
- ・ 昨年12月の総選挙で多極化：事実上の四大政党制に。
 - 主要各党の勢力が拮抗。多数派工作が纏まらず、首相選出に失敗。**憲政史上初のやり直し選挙**（6月）。
 - 結果、PPが支持を伸ばすが、過半数には届かず。
- ・ 新国会の招集（7/19）を見据え、各党は多数派工作へ。
 - 前会期に比して、PP中心政権の可能性が高まり、PSOE・ポデモス連合他による左派連合の見込みは低下したが、状況は流動的。未だ協議が纏まる方向性は見えず。



(注) 上記4党以外（計28議席）は、カタルーニャ分離独立派政党、バスク地方主義政党、共産系政党他。

2. カタルーニャ州情勢

- ・ 昨年9月に州議会選挙。分離独立派2党が合計で議席の過半数を獲得（得票率47.8%）
 - 州議会は1月、分離独立派のプッチダモン州知事を選出。
 - 州与党「Junts pel Si」と民衆連合（CUP：極左、アナーキストと評される）の合意に基づく。
 - 新知事はマス路線の継承、分離独立プロセス推進姿勢を表明しているが、これまでのところ中央政府の暫定状態もあり様子見。CUPの不満が上昇中。
- ・ 分離独立は憲法に規定なし。憲法裁判所は（独立分離は）違憲との立場。
- ・ カタルーニャが分離独立すると、スペインの国際法上の権利義務関係から外れる（例：EUメンバーではなくなる）。



プッチダモン知事



マス前知事

